



富士の国やまなし国体

今君は氷上の風になる

氷闘！ かながわ・よこはま冬国体



第73回大会 TEAM FUKUOKA NEWS

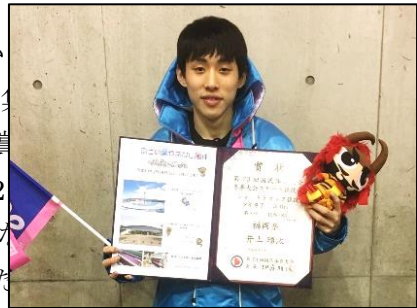
福岡県選手団サポートニュース H30.2.2 Vol.9



2/1 ショートトラック 井上選手連続3位入賞！ 成年女子 3000mリレー、3位で締める！

【少年男子 500m】

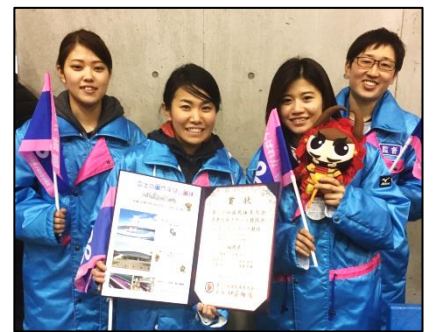
1000mに続き、井上瑠汰選手がA決勝に進んだ。スタート直後かに駆けて2位に付けていたが、レース終盤3位に。そのまま2名の後を離され3着でレースを終えた。井上選手は、昨日に続いて、3位入賞した。レースを終え、井上選手は、「国体直前の全日本ジュニアで2位だったので、今大会はプレッシャーがあり、ミスが目立つレース展開となった。来月には世界ジュニアも控えている。5日からの韓国合宿で修正したい」とコメント。今後の井上選手の更なるステップアップに期待したい。



【連続3位入賞の井上瑠汰選手】

【成年女子 3000mリレー】

A決勝に、古賀あや選手（二日市中学校（教））、弥中美由選手（神奈川大学）、南里塔子選手（福岡県スケート連盟）、渡邊史織選手（福岡県スケート連盟）が出場。強豪チームがひしめく中、少ないチャンスをものにし、3位入賞を果たした。



【左から南里・渡邊・弥中・古賀の各選手】

★ 大会を終えて

古賀選手兼監督は、「今回の平昌五輪に選手を出すことができなかった。日本代表選手選考に絡む選手の育成が急務である。そのためにも、県内の育成環境を整え、練習内容等を工夫していきたい。」とコメント。

また、江田監督は、「ショートトラックはレース展開が早い競技である。ただし、レース展開やスピードだけを意識した練習だけでは、トップ選手には導けない。今後は、指導者も高い目標をもって育成・強化に携わってほしい。」と述べた。

ショートトラック競技における本県の競技得点は、第71回大会（H28）が44点、第72回大会（H29）が13点、今大会が18点と、ここ2年は低迷している。

昨年度から再開されたショートトラック競技の「有望選手発掘事業」に見られるように、競技人口の拡大策や一貫指導など、連盟の地道な働きかけが実る日はそう遠くないと感じている。過去のこの事業で発掘された子どもたちの中から、今大会には、張旭選手（福岡大学）が出場した。今回は、競技得点を獲得することはできなかったが、今後の成長に期待したい。